

第

三

種

繪本太閤記

尼ヶ崎の段

本文「北條義時は帝を流し奉る」和漢ともに無道の君を弑するは民を安むる英傑の志の二句、頗る穩當を缺ぐ。當時の思潮を解する思慮ある者にあらざれば非理を教ふる事にもなるべし。語る者も、聽く者も、心すべき所なり。この段亦軟弱に亘る語句あり。

但し、現今前記の二句を省きて語る者多し。同感なり。

同

上

孫市切腹の段

功名は戰國時代の武士の唯一の理想なりき。此の段孫市が我が子の功名を立てしめんと、頑是もなき一子重苦に、自分の首を討たしむるは、當時を知るものにして、はじめて會得すべし。慘又酷、聽く者をして身粟を生せしむ。

艶姿女舞衣

酒屋の段

能く人口に膾炙したる語り物なれども、全段の結構軟弱の嫌あり。

天綱島時雨炬燵

紙屋の段

全段の結構軟弱なり。殊に「をとよしの十月中の亥の子に炬燵あけた祝儀とて云々」の語身猥なり。

鎌倉三代記

三浦別の段

此の段、口の數十行、安達藤三の詞は猥褻聴くに堪へず。されば通常は三浦の立歸より語らる。然するも時姫のクドキ中軟弱の語句あり。殊に末段親を討たんと誓へる時姫の心事、憐むべきものありと雖も今日の思潮に適はず。

戀娘昔八丈

鈴ヶ森の段

この段取りたて身猥の語句を認めずと雖も結構脚色共に軟弱なり。

箱根靈現甍仇討

瀧の段

初花の貞節、筆助の忠義は勿論此の段の主體なれども、敵瀧口上野、初花を奪ひ、夫と母の面前にて己の意に従はしめんとする所、穢はしき詞あり。

同

上

新左衛門屋敷の段

お時、お霜の兩人が寮人初花の爲に奴三千助を靡かしめんと相争ふ痴體、聽く者をして嫌氣を催さしむ。其の他軟弱の語句多し。但し三千助なる飯沼勝五郎の潔白清淨なるは大望ある身として當にかくあるべきもの。

攝

州

合

邦

辻

合邦内の段

縦へ事實にあらすして然も後段に判明することなりとはいへ、繼母が子に戀慕せる如く脚色せしは嘔吐を催さしむ。さらぬだに軟弱の語句あり。

鏡

山

舊

錦

繪

草履打の段

中老尾上、岩藤のために罵詈せられ剩へ草履にて打擲せらるゝをば、慈母の折檻と心得んとて隱忍したるは主君大事を思へばこそなれ。これ大に教訓とすべし。然れどもこの段の前半、早枝の詞、及び岩藤の詞に軟弱卑猥なり。

碁太平記白石噺

新吉原揚屋の段

作者紀上太郎は有名な三井家の主人なりきといふ。此の作をなすに多額の金品を費し、人を派して實地の風俗、言語を踏査せしめたりといへば、文學上には大に價値を認べし。又風教上にも、まだうら若き二少女が父の仇を報いんとする孝心感すべし。又揚屋の亭主宗六の義侠等採るべきものあれども、憾むらくは前半に下流界の狀態を寫すことあまり露骨に過ぎて、青年を懲るものあらんを懼る。

生寫朝顔話

宿屋の段

此の段も能く人口に膾炙し、女義太夫間には殊に流行せる語り物なれども、主人公深雪(朝顔)が淫奔の顛末を物語る所軟弱にして子女を懲る嫌あり。

中將姫古跡松

雪責の段

中將姫の忍耐、浮船、桐の谷の忠義、共に教訓となる、然れども繼母岩根御前が中將姫を折檻する所あまり慘酷にして聽く者をして慄然たらしむ。

假名手本忠臣藏 殿中の段

勘年どおがるの痴話、高師直の横戀慕、鷺坂伴内の醜體等、重ねがさね所界狼の個所あれども次段四段目、及び本藏下屋敷の段の連鎖として此の部に收む。

同

上

一力茶屋の段

由良之助が敵を圖らんとして下流の街に沈湎する苦衷、平右衛門が敵討の供に従はんとて、妹おかるの命を請へば、妹も亦一命を兄に捧げんとする友情、感ずべきものあり。然れども此の段下流界の痴體を寫すこと露骨に過ぐ。

義士忠臣藏

本藏下屋敷の段

加古川本藏、主君若狹之助に暇を請ひ、今や別れんとして、主従三世の思愛に暮るる件、主君の慈愛臣の忠烈、言々生血迸る。然れどもこの段口の部、井浪番左衛門が若狹之助の妹姫三千歳に戀慕する所界狼の詞あり。

岸姫松轡鑑

朝比奈上使の段

飯原兵衛、主君より預りし司姫の身替として、娘おそよを殺さんとし、養父與茂作これを助けんとする忠義と慈愛とは、この段の主眼なんどもおそよの物語中「若い殿御が長廊下で云々」より「肌を放さぬ記念の衣」まで十數行軟弱なり。然も其の相手が骨肉の兄隼人之助なりしが如く欺きておそよに自害せしめしは慘酷なり。

近頃河原達引

堀川の段

此の段、弦曲上には最も手腕を要する秘傳物なれども、風教上には與次郎の質朴なる親孝行を採る外に何等教訓の意義を含まず。構成、脚色共に軟弱なり。

茜染野中の隠井

長吉殺の段

長吉、姉の難義を救はんと若慮せるは友情の切なるものあれども、主人の金を盗みしは悪事なり。又姉の夫由兵衛、縦へ必要に逼りたればとて、義理ある弟を殺して金を奪へるは非道の極み、餘義なき事として恕すべからず。女房小梅、身を賣りて金を調へるは夫婦の情かくもあるべし。

し。但し此の段、喧嘩を本業の如くする此の社會の狀態を寫せるは、年少氣銳の青年に惡響を及ぼさるんことを恐る。

増補國性爺 唐へ宿替

和藤内の妻かむつ、梅檀皇女の御供して唐へ宿替せんと諸道具を賣拂ふといふ滑稽なる語り物なり。風俗上可もなく不可もなければ卑語多く結構亦評すべき價值もなし。

八間詞長者氣質 持余屋の段

持余長者、金があり過ぎて却て困難するといふこれも滑稽なる筋なり。風俗上評すべき價值なし。

玉藻前旭袂 十作住家の段

矢口大六の忠義なる、女房お藻を殺して舅の隱望を發さ、然も己は身を墨染の衣に替へ、舅と妻の菩提を弔ふは善し。然れども段中卑猥に亘る語句あり。

道中膝栗毛

赤坂竝木の段

所謂チャリ淨瑠璃にして頗る滑稽なるものなり。段中二三猥褻の語句あれども滑稽として觀過するを得んか。

音無岩井風呂

茂兵衛が衆目の面前にて嘲笑せらるるを忍耐し、遊蕩を悔悟したるは、最も通俗的の教訓たるべし。然れども全段の結構軟弱なるを憾む。

極彩色娘扇

天王寺村の段

兵助の正直、女房お牧の貞節等有益なる教訓あれども結構軟弱世話に過ぐる嫌あり。

軍法富士見西行

三の切

西行法師、傾城賢に出かけ偶然にも己の娘に逢ふといふ筋にして段中軟弱身振に亘る語句あり。

一 谷 嫩 軍 記

流しの枝

(菟原の里)の段

薩摩の守忠度が武勇の裡、然も風雅に富める所、岡部六彌太の仁義ある所、面白き脚色なれども、菊の前の詞軟弱に亘る嫌あり。

花 禪 會 稽 掲 布 染

官治郎切腹の段

佐崎官治郎の從客として死に就く立派さ、下郎繁藏が追腹を切らんとして止められ一子峰松を傳育する誠忠等、教訓とすべきふし多けれども、軟弱なる語句多し。

増 補 比 翼 塚

長兵衛内の段

幡隨院長兵衛の義侠、妻お時の貞節等感すべきものありと雖も、白井權八がお時に虚偽の戀慕を仕かくる所軟弱の語多し。

御 所 櫻 堀 川 夜 討

辨慶上使の段
片身片袖の段

古今の剛者、辨慶を艶福化せしめたる脚色は面白し。されどお朝が娘を前に置きて、長たらしき艶物

語は多情の青年子女を挑發する嫌あり。

本朝二十四孝

勸助住家の段

慈悲藏の孝行は直に採つて則とすべし。横藏の不孝は以て誠とするに足る。横藏の不孝は固より心ありての不孝なれども、弟の妻に横慈慕などする所は聽者をして不快を感せしむ。大行は細瑾を顧みずといへども、細瑾を顧みて大行を遂ぐるは、より上乘なり。

義經千本櫻

鮮屋の段

曲の權太、大事の際に改心して忠孝二つながら全さを得たるは心地よし。女房小千、一子善太の義貞亦感すべし。彌左衛門の妹お里の所作、言語に卑猥の點あり。

鬼一法眼三略卷

菊畑の段

鬼一法眼が下僕虎藏(牛若丸)を折檻する所、教訓とすべき言あり。法眼いよく三略の巻を牛若丸に與ふる段となりての物語は、言々句々、堂々たる正義と、慈々たる情愛とを含む。此の段惜むらくは息女皆鶴姫が牛若丸に慈慕する件、あまり露骨に過ぐる嫌あり。

肥後の駒下駄

五條海老屋の段

青柳源之助は勇氣ある孝子にして柳助は忠僕、女房は貞女なり。たゞ極端に失せる嫌あると段中一二軟弱の語句あるを措む。

自來也

自來也住家の段

自來也、主君三好長重の謀叛を繼ぎて黒姫山中に匿れ、古き疵を癒さんため、人を殺して其の血を飲まんとするなどは慘酷なり。自來也の行爲は主君の遺言を守るにあれども、畢竟するに惡を遂げんとするなり。思慮せざれば誤解すべし。